主の祈り（The Lord's Prayer）

天にまします我らの父よ。
願わくは御名をあがめさせたまえ。
御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を
今日も与えたまえ。
我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みに会わせず、
悪より救いだしたまえ。
国と力と栄えとは、
限りなく汝のものなればなり。
アーメン。

祈りは人間が神に話しかける神との対話であり、人間と神との関係の縮図を表しております。その内、新約聖書マタイによる福音書第6章9節-13節に記されている「主の祈り」は、イエスキリストが在世中、弟子達に教えた祈りの手ほどきであります。ここには人生に必要不可欠な最も大きな祝福が示されております。その基となる天地の主である唯一の神との交わりは、中保者であるキリストの介在によって成り立ちます。その恵みは、祈り全体細部隅々にまで及び一貫しております。日ごとに献げるこの祈りを通して主との関係が少しでも深まりますことを望み、その一助に本文を9条に分け、各条には聖書に基づく略解を付け加えました。

1. 『天にまします我らの父よ。』

【略解】 キリストによって清らかにされた純粋な真心をもって真の神に向かい祈る。真の神とは人間が作った神ではなく、人間を創った神である。現存するこの宇宙を創造し、尚且つ統括している、天地の主・真実にて唯一の父なる神ヤハウエに向かい祈る。(*注1)

2. 『願わくは御名をあがめさせたまえ。』

【略解】 愛の神である救い主に近づき祈る。歴史上、人類に愛しみと憐れみをもって関わってくださった聖父(創造主、支配者)・聖子（贖い主、復活の主）・聖霊（助け主）なる救い主である聖き神の御名を称え、心より慕い仰ぎ礼拝する。

3. 『御国を来たらせたまえ。』

【略解】 神による支配、神に贖われ清められた新しい世界の到来を待ち望む。亡びゆくこの世ではなく、永久に栄える神の国。御国は、神が臨在し共にいてくださる（インマヌエルの）神の国。平和と愛と真実の神の国。神の生命と栄光に満ちた神の国。喜びと賛美と感謝が湧き絶えない神の国、信じる者に与えられた永遠の国籍・真の故郷である神の国。御国はキリストによって救われた者の神の国である。今この恵みの時代、神の御愛による支配が臨み、聖霊の助けにより、キリストによる救いに導かれる。主に導かれた者は、主の証人としてこの福音を体現し、宣べ伝えかつ祈る。時代は変遷し、キリストはやがてこの地上に再び来られ、御国は完成へと向かう。贖われた聖徒らが共に居り、キリストが直接支配する。この新しい世界がやがて到来する御約束の実現を待ち望み祈る。

4. 『御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。』

【略解】 御心を心として祈る。御心を常に問うて従い歩む。御心に適う祈りは、神に喜ばれ、無駄にならず、神の真意が成される。キリストは病に患った者に「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた、するとその人の病はすぐに癒された。天にいます神の御心は御子イエス・キリストにある。キリストを通して御心は地上に実現・完成される。なお、「わたしを遣わした方（父）の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を

得ることで、わたしがその人を終わりの日に復活させる。」[2] とキリストは語った。ここで、「汝らキリスト・イエスの心を心とせよ」[*3]、の御言葉を覚え、この至高の恵みに希望をおき信じ祈る。

5. 『我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。』

【略解】 生命の主に祈る。主イエスは活きた生命のパン、活きた生命の泉、生命の主である。キリストを通した神との生命の繋がりにより、霊肉共我らは養われ、キリストによって与えられた使命全うに必要な神の豊かな生命に満たされる。

6. 『我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。』

【略解】 主の証人として生きる。主を信じ受け入れることにより、罪赦され平安と希望が与えられる。赦された者は、その御恵みに感謝し、神の御愛（アガペー、赦しの愛、）、すなわち、キリストを喜び伝え、人々を赦す恕しの命が我が心に与えられ、平和の使者として召される。平和の君であるキリストこそ、神との和解を執成す神の子羊であることを覚えて祈る。

7. 『我らを試みに会わせず、悪より救いだしたまえ。』

【略解】 主による守りと純潔を祈る。いちず神のみに御心を常に問うて従い歩む。救い主イエスキリストは常に我らと共に居る。弱き我らは神に抱かれ、聖霊の助けにより、罪を遠ざけ、悪に惑わされず、不法者の罠に陥ることなく、目を神に向け、主のみを仰ぎ、一心不乱にて純潔の道を邁進する。たとえ一時は迷っても、神の憐みにより救い守られ、正しい道に導かれ、信仰による勝利を祈る。

8. 『国と力と栄えとは、限りなく汝のものなればなり。』

【略解】 主に感謝し賛美する。愛しみと生命に満ち、すべてを支配する主、全知全能なる主、至高の栄光に輝く主、永久に。神の栄光を讃え、感謝を献げる。

9. 『アーメン。』

【略解】 主なる神は信実なお方。真実にて、信頼に足りる唯一のお方である。アーメンとはそのことを信じ受け入れる意を表す信仰告白である。「主に立ち返って、静かにすれば、救われ。落ち着いて、信頼すれば、力を得る」[*4]。主に立ち返って信頼する者に、主はすべてを善きに転向し導いてくださる。祈祷者はキリストに立ち返り、すべてを委ね、信じ祈る。主はこの献た祈りを最善に導く。

文内聖書引用箇所: ＊1: マルコによる福音書1:40-42　＊2: 新共同訳聖書 ヨハネによる福音書6:40　＊3: 文語訳聖書 ピリピ書2:5　＊4: イザヤ書30:15

＊注1: ここでは、聖書に記されている、天地を創造し[1]、万物の根源であり[2]、すべてを統べたまう主、『わたしはあってあるもの（ヘブライ語原文אֶהְיֶה אֲשֶׁר אֶהְיֶה）（意訳、すべては永久に存在するわたしにより成り立つ、そのわたしは今も常に新しい事を成す）』と述べられた超然かつ実在する唯一の神ヤハウェ（ヘブライ語原文יהוה）[3]に向かって祈る。

神に背き死罪を犯した世人を神は愛し救うために、神の独り子イエスキリストをこの世に遣わし、罪の身代わりに、十字架上において死なれ、葬られ、その後三日目、死に勝利し復活された。爾来（これより）人は、個人個人何時でも何処でも、神をないがしろにした深き罪を悔い改め、御子イエスキリストのなされた贖いの業を信じ受け入れるのであれば、罪赦され、神の御前に立ち祈ることが許される。聖書ではこのように記されている。『イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、生命である。だれでもわたしによらなければ、父のみもとに行くことはできない。」』[4]。また『イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、生命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。」』[5]。罪赦された者には神より永遠の生命が与えられる。その繋がりにより、神を「アバ父よ」と呼び求め、その祈りは神に届けられる。

注内聖書出自: [1]（創世記1:1）[2]（黙示録3:14）[3]（出エジプト記3:14）[4]（ヨハネによる福音書14:6）[5]（ヨハネによる福音書11:25）

願わくは、「主の祈り」が各自の祈りとなり、主の栄光と共に、主の豊かな祝福が皆の上に臨みますように。

（SV. 2018年12月15日 林 守仁）